

医療変革

未来からの反射 ①

日本の医療は国民皆な予防、治療、リハビリ保険制度を基盤とする。国民はすべて公的医療保険に加入し、誰もが全国の医療機関で同じ医療サービスを受けられる。特にフリーアクセスは世界で高く評価され、今、世界が注目しているユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（全ての人が適切

な予防、治療、リハビリなどの保健医療サービスを支払い可能な費用で受けられる状態）を国民は当然の権利のごとく甘受している。戦後占領期改革から復興し、1961年に確立した国民皆保険制度は、戦後の奇跡的な経済成長で充実したが、高齢化と高齢者医療費無料化などにより医療費は高騰した。バブル崩壊後には医療費抑制のため医療改革（老人保健法や介護保険制度）が求められ、ついには緊縮財政による医療崩壊がメディアで報じられた。

21世紀に入り、少子超高齢・人口減少社会

身体・精神・社会的良き生存

に突入し、医療改革は制度改革として取り組まれている。そうした



医師は他者の「生老病死」に立ち会う



生 病 老 死

医学 基礎医学・臨床医学・社会医学

医療 出産・診断・治療・介護・ターミナルケア

社会保障 保健・医療・福祉・年金



Medical Excellence
JAPAN(MEJ)理事長 笠貫 宏

67年千葉大医卒。97年東京女子医科大学主任教授。15年早大特命教授、医療レギュラトリーサイエンス研究所顧問、21年から現職。22年内閣府健康・医療戦略推進事務局健康・医療戦略参与。

中、2020年からの「生老病死」に立ち会い、感染症によるパンデミック（世界的大流行）は立ち向かい、時には分岐において、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな良き生存を維持することは、狭く、特に医療のデジタリゼーション（DX）の遅れを顕在化した。

私は、「医療」とは「産、診断・治療、ターミナルケアなどを実践する。それらは保健・医療・介護・福祉・年金すべてにかかわるシ」

「医学の社会的適用」を考えると、仏教語の「生老病死」は人生における避けられない四つの苦悩のことをい

価値観が多様化し社会格差が拡大する21世紀において、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな良き生存を維持することは、狭く、特に医療のデジタリゼーション（DX）の遅れを顕在化した。

私は、「医療」とは「産、診断・治療、ターミナルケアなどを実践する。それらは保健・医療・介護・福祉・年金すべてにかかわるシ」

価値観が多様化し社会格差が拡大する21世紀において、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな良き生存を維持することは、狭く、特に医療のデジタリゼーション（DX）の遅れを顕在化した。

私は、「医療」とは「産、診断・治療、ターミナルケアなどを実践する。それらは保健・医療・介護・福祉・年金すべてにかかわるシ」

（次回の「医療変革 未来からの反射」は5月26日に掲載予定）